

裾野・トヨタ未来都市

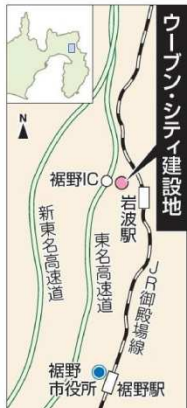
第1期エリア完工まで1年



1年後の完成に向け、建築工事が進むウーブン・シティの第1期エリア。8月上旬、裾野市

市の周辺整備事業も始動

ウーブン・シティ 東名高速道路裾野インターチェンジ近くのトヨタ自動車東日本工場跡地に建設する。敷地面積は70万8千平方メートル。第1期エリアは南端の約5万平方メートルで自動運転や水素エネルギー、健康食、物流システムなどの実証実験に取り組み、企業や個人の開発者、子育て世代、高齢者らが実際に生活しながらアイデアを共有して新しい技術・システムを発明する。エリアを区切って順次建設し、将来的には2千人以上が居住するといふ。



第1期エリアの本体建築工事が始まったのは2022年11月。9カ月がたち、中層建築の骨組みが周辺道路からも確認できるものになった。事業を主体とするウーブン・バイ・トヨタ（東京）によると、「第1期エリアは24年8月ごろに建物が完成し、翌25年から順次実証実験を始める計画に変わるといふ。」

浮かぶ輪郭高まる期待

トヨタ自動車が裾野市に建設する次世代技術の実証都市「ウーブン・シティ」で、最も早く開業する第1期エリアの建築工事が完了まで1年になった。実証実験の内容はまだほんの一部しか明らかになっていないが、現場では工事の進み、建物の輪郭が出現している。市による周辺の再開発事業も本格化し、地元では国内外から注目される未来都市への期待が日増しに高まっている。

記事を読んで、問いに答えなさい。

①トヨタ自動車が、裾野市に建設予定の「ウーブン・シティ」では、モビリティ（移動）のためのテストコースをどのように整備する計画があるか。記事を参考に説明しなさい。

②裾野市は、「ウーブン・シティ」の最寄りとなるJR岩波駅周辺をどのように整備する計画があるか。次の語句を必ず使って、説明しなさい。

< 接続道 >

③住民有志は、JR岩波駅周辺でどのような環境美化活動を考えているか。記事を参考に説明しなさい。

④「ウーブン・シティ」に期待することは何か。あなたの考えを書きなさい。

ウーブン・シティはモビリティ（移動）のためのテストコース。地上は「自動運転車」「歩行者」「歩行者と低速で移動するパーソナルモビリティ」の3つの道に分け、地下に「物流」の道を整備する。事業計画を公表したのはENEOS（エネオス）や日清食品、リンナイなど数社にとどまり、具体像はなかなか見えてこない。だが、建設地近くの自動車部品メーカーの男性社員（54）は「建物ができてくるのを見ると、いよいよだなと感じる。どのようなまちになるのか楽しみ」と話す。

市は23年度、最寄りとなるJR岩波駅の周辺整備事業を着工した。10年間の短期と、中長期に分けて再開発する。駅とウーブンを結ぶ約500メートルの接続道は自動走行する次世代型モビリティの通行を想定して拡幅し、駅前広場や観光交流拠点施設を整備する。

地元の岩波区では8月、住民有志が駅周辺の環境美化活動を行った。来訪者を歓迎するために地区を花で彩り、河川沿いにホタルが舞う環境を目指す。田中正延区長（74）は「人口が減少する中、ウーブン・シティができれば、多くの人が訪れるようになる。自分たちもできることから始め、活気ある岩波を取り戻したい」と願う。

一方、複数の建設業者によると、ウーブン・シティから大量の建設残土が発生し、別の現場の処分場が見つからなったり、処理費用が高騰したりする影響も出ているといふ。

（東部総局・杉山 倫）

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 伊藤 大介

（静岡聖光学院中学校・高校 教諭）（中学校～高校／社会、総合）

裾野・トヨタ未来都市

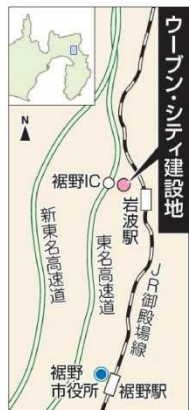
第1期エリア完工まで1年



1年後の完成に向け、建築工事が進むウーブン・シティの第1期エリア。8月上旬、裾野市

市の周辺整備事業も始動

ウーブン・シティ 東名高速道路裾野インターチェンジ近くのトヨタ自動車東日本工場跡地に建設する。敷地面積は70万8千平方メートル。第1期エリアは南端の約5万平方メートルで自動運転車や水素エネルギー、健康食、物流システムなどの実証実験に取り組み、企業や個人の開発者、子育て世代、高齢者らが実際に生活しながらアイデアを共有して新しい技術・システムを発明する。エリアを区切って順次建設し、将来的には2千人以上が居住するといふ。



第1期エリアの本体建築工事が始まったのは2022年11月。9カ月がたち、中層建築の骨組みが周辺道路からも確認できるようになった。事業を主体とするウーブン・バイ・トヨタ（東京）によると、「第1期エリアは24年8月ごろに建物が完成し、翌25年から順次実証実験を始める計画に変わりはなく」といふ。

浮かぶ輪郭高まる期待

トヨタ自動車が裾野市に建設する次世代技術の実証都市「ウーブン・シティ」で、最も早く開業する第1期エリアの建築工事が完了した。実証実験の内容は、まだほんの一部しか明らかになっていないが、現場では工事の進み、建物の輪郭が出現している。市による周辺の再開発事業も本格化し、地元では国内外から注目される未来都市への期待が日増しに高まっている。

記事を読んで、問いに答えなさい。

①トヨタ自動車が、裾野市に建設予定の「ウーブン・シティ」では、モビリティ（移動）のためのテストコースをどのように整備する計画があるか。記事を参考に説明しなさい。

（例）地上は「自動運転車」「歩行者」「歩行者と低速で移動するパーソナルモビリティ」の三つの道に分け、地下に「物流」の道を整備する計画。

②裾野市は、「ウーブン・シティ」の最寄りとなるJR岩波駅周辺をどのように整備する計画があるか。次の語句を必ず使って、説明しなさい。

＜ 接続道 ＞

（例）駅とウーブンを結ぶ約500メートルの接続道は自動走行する次世代型モビリティの通行を想定して拡張し、駅前広場や観光交流拠点施設を整備する計画。

③住民有志は、JR岩波駅周辺でどのような環境美化活動を考えているか。記事を参考に説明しなさい。

（例）来訪者を歓迎するために、岩波地区を花で彩り、河川沿いにホテルが舞う環境作りを計画している。

④「ウーブン・シティ」に期待することは何か。あなたの考えを書きなさい。

（例）今住んでいる地域よりも、より安心で快適なゆとりのある都市空間を期待したい。

見えてこない。だが、建設地近くの自動車部品メーカーの男性社員（54）は「建物ができてくると感じる。どのようなまちになるのか楽しみ」と話す。

市は23年度、最寄りとなるJR岩波駅の周辺整備事業を着工した。10年間の短期と、中長期に分けて再開する。駅とウーブンを結ぶ約500メートルの接続道は自動走行する次世代型モビリティの通行を想定して拡張し、駅前広場や観光交流拠点施設を整備する。

地元の岩波地区では8月、住民有志が駅周辺の環境美化活動を開始した。来訪者を歓迎するために地区を花で彩り、河川沿いにホテルが舞う環境を目指す。田中正延区長（74）は「人口が減少する中、ウーブン・シティができれば、多くの人が訪れるようになる。自分たちもできることから始め、活気ある岩波を取り戻したい」と願う。

一方、複数の建設業者によると、ウーブン・シティから大量の建設残土が発生し、別の現場の処分場が見つからなかったり、処理費用が高騰したりする影響も出ているといふ。

（東部総局・杉山 倫）